



オーギュスト・ルノワール《勝利のヴィーナス》

1915~1916年 ブロンズ 110.0×58.0×180.0cm (北海道立函館美術館蔵)

優美な女性を描いた油彩画で親しまれ、印象派を代表する画家ルノワール(1841-1919)は、晩年になって悪化するリュマチに悩まされ、絵筆を持つことさえ困難になります。次第に身体が不自由になっていくルノワールに彫刻制作を提案したのは、画商のヴォラールでした。最初は柔らかな蜜蝋の彫刻を勧めましたが、やがて本格的にルノワールの構想を助ける目的で彫刻家を紹介し、契約します。彫刻ならば、助手による制作補助が可能だからです。

ヴォラールが紹介したのは、ルノワールの胸像を制作した彫刻家のアリストイド・マイヨールに学び、その後助手を務めた、若きスペイン人彫刻家リシャル・ギノでした。1913年にルノワールと出会った当時はまだ24歳だったこの若者は、カーニュやエツソワの地でルノワールと生活を共にしながら、彼が描いたデッサンをもとに、丹念に彫刻作品に仕上げていく仕事を手伝いました。そのおかげ

で、70歳を過ぎたルノワールは亡くなる前年頃まで、彫刻の制作に没頭することができたのでした。

〈勝利のヴィーナス〉は、ルノワールの彫刻作品のなかでも最大のもので、ギリシャ神話の『パリスの審判』に着想しています。トロイアの王子パリスは、ヘラ、アテナ、アフロディーテ(ローマ神話のヴィーナス)のなかから最も美しい女神を選ぶことになり、結果アフロディーテが栄冠を手に入れます。彼女は争いの女神エリスから、勝利の証として黄金の林檎を与えられました。ルノワールは、林檎を手にするアフロディーテを、自身が描く絵画とまったく変わらない、女性の豊かさや健康的な官能性と、圧倒的な量感をもって表わしています。

この作品は、函館美術館のホールのまんなかで、いつでもやさしく来館者をお迎えしています。

(北海道立函館美術館 学芸課長 久米淳之)



日韓国交正常化50周年記念事業 北海道立近代美術館

日韓近代美術家のまなざし

Korean and Japanese Modern Artists in the Korean Peninsula, 1890s-1960s

한일 근대 미술가들의 눈

藤田嗣治、北大路魯山人、浅川巧、国松登、^{コ・フイドン}高義東、^{イ・インソン}李仁星、^{チャン・ウクチン}張旭鎭、^{ユ・ヨングク}劉永國…
彼らのまなざしのかたに、わたしたちがいる。

9月1日(火)～10月12日(月・祝)

北海道立近代美術館 主任学芸員 井内佳津恵

当時、日本の統治下にあった「朝鮮」を多くの日本の美術家が旅行しました。初めて眼にする風景や人々の姿に触発された作品は、みずみずしい



本展は20世紀前半、日本と韓国の美術家が、朝鮮半島という空間を、どのように体験し、どのように表現したかを初めて一堂に紹介する展覧会です。

日韓国交正常化50周年を記念した日韓の近代美術の秀作約200点が一堂に会する、史上初の展覧会！

韓国による統治下で、さまざまな社会的限界や矛盾に直面しな

韓国美術家は、

感興を伝える一方で、「朝鮮」のイメージを過去の伝統にのみ結びつけてしまいう働きももちました。他方、「東洋と西洋」、「伝統と近代」をどう考えるかという自己の課題に対し、「朝鮮」での体験が深い示唆を与える機縁となった記念碑的作品も生まれています。

「朝鮮」のイメージを過去の伝統にのみ結びつけてしまいう働きももちました。



李惟台(イ・ユテ)《和音》1944年 韓国国立現代美術館蔵

が自らを取りまく世界を鋭く見つめ、内面に深く根ざしながら豊かな表現活動を行いました。彼らの多くが、韓国美術界を牽引する存在となっています。



本展ではまた、戦前に「朝鮮」に生活の根をおろして活動した、「朝鮮」在住日本人美術家にも光をあてます。札幌の北海中学(現・北海高校)団栗会(どんぐりかい)創立会員の佐藤九二男は、京城第二高等普通学校美術教師として活躍し、多くの俊秀を育てました。

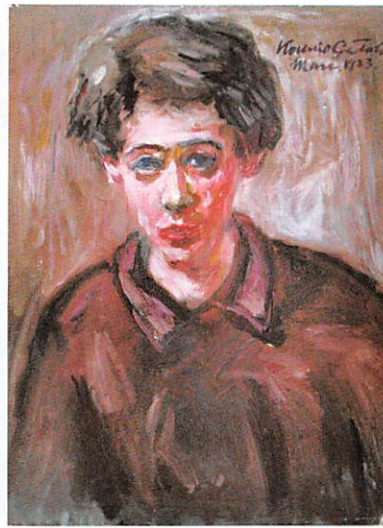
日本と韓国は古来、密接な交流が行われてきましたが、北東アジアに



山口蓬春《市場》1932年 東京藝術大学蔵



金重鉉(キム・ジュンヒョン)《農楽》1941年 個人蔵



佐藤九二男(自画像)1923年 東京藝術大学蔵

おける周囲との複雑な関わりの中、
両国の関係は平穏なときばかりでは
ありませんでした。20世紀前半には、
日本による朝鮮半島の植民地化とい
う不幸な時期を経験しました。



具本雄(ク・ホンヌン)《女人》1930年
韓国国立現代美術館蔵



北大路魯山人《刷毛目彫三島茶碗》1928年 個人蔵

しかし1965年の日韓国交正常
化以来、友好と親善を深める努力が
なされ、未来に向けた創造的な隣人
関係を目指しています。



本展は、東洋画、洋画、版画、工芸、
彫刻など約200点の作品により、
困難な時代に、真摯になされた日韓の
美術家の創造の軌跡を紹介します。

国交正常化50周年の今年、両国の
理解と共感をはぐくむ機会となるで
しょう。また、北海道とソウル特別市、
釜山広域市との姉妹提携5周年、10
周年にもあたります。本展に合わせて、
会期中、当館を市民が韓国のさまざま
まな文化的魅力にふれることのできる
場として提供することを目的に「美術
で結ぶ」ときと「ひと」―北海道・市
民と韓国の「出会い」創造活動事業」を
文化庁の平成27年度、地域の核とな
る美術館・博物館支援事業として開
催いたします。



黒田辰秋《樺拭漆真鍮金具三段棚》1927年
河井寛次郎記念館蔵

韓国近現代美術史学会、北海道芸
術学会との連携により開催する国際
交流レクチャー。韓国の重要無形文化
財である「農楽」と、北海道の現代芸能
『よさこいソーラン』による夢の競演。
画家イ・ジュンソプと結婚し、朝鮮戦
争のため日韓に引き裂かれながらも、
夫への愛を貫いた山本方子氏を主人公
とするドキュメンタリー映画『ふたつ
の祖国、ひとつの愛』イ・ジュンソプ
の妻』の上映会&講演会などです。
このほかにも、伝統キムチ作り体験教
室、韓国カフェ、ポジャギ(韓国の伝統
的パッチワーク)教室など盛りだくさ
んのイベントを開催予定です。ぜひお
越しください。



特別展

ワンワンワンッダフル！

あの犬に会いたい

北海道立三岸好太郎美術館 9月5日(土)～10月21日(水)

札幌出身の三岸好太郎(1903-1934)は、十代で上京後、わずか10年余りの活動期間のなかでめざましい活躍を見せ、昭和初期の日本近代洋画史を彗星のように駆け抜けました。そんな三岸の初期作品の中には春陽会賞を

受賞した作品『ラケットをもつ少年と少女と犬』なる犬の姿が登場するものが見られます。そこに描かれている愛らしい犬は、毛並みの良さそうな西洋犬であり、西洋風の庭園風景を背景に、しばしば裕福そうな身なりの人物が犬の側に描かれました。

しかし、当時の三岸はキャンバスの入手にも苦労する貧しい暮らしを送っていました。画面の中にあらわれた犬たちの姿は、生活苦の中で画家が想像力の翼を広げて描かれたものであったかもしれません。やがて三岸は画家として成功を収めるにつれ画面から犬の姿は消え、そして謎めいた作品『猫』が制作されます。

人間と犬の密接な関わりは、少なくとも今から三万年前には始まっていたと言われています。絵画においても、既に旧石器時代末期の洞窟絵画には犬の姿が

現れ、我が国においても古墳時代に犬をかたどった埴輪が見られるほど、古くから犬の造型をみる事ができます。このように犬たちの姿は、時代、地域を問わず様々な美術作品にとりあげられました。

特別展「ワンワンワンッダフル！」あの犬に会いたい」では、三岸が描いた犬の作品を出発点に、犬を題材にした絵画や版画、写真、彫刻、造形など、多岐にわたる分野の作品や関連資料を紹介いたします。それらの中には可愛らしく様式化された犬の姿もあれば、人間の頼もしい仲間として苦楽を共にする凛々しい犬の姿も見られます。また、人間社会の中に紛れ込みちよつとだけ(?) 図々しくも、たくましく共生する野良犬たちや犬を擬人化させたり、犬の視線に託して、人間や社会の側面を切り取った作品もご紹介いたします。魅力的なワンちゃんたちが集まる展覧会を是非お楽しみください。

なお、会期中、館内では本展以外にも『猫』『飛ぶ蝶』など当館所蔵三岸好太郎の代表作も展示いたします。

(北海道立三岸好太郎美術館 福地大輔)



なかいれい<ラケットをもつ少年と少女と犬とマール>2010(平成22)年



三岸好太郎<ラケットをもつ少年と少女と犬>1922(大正11)年頃
北海道立三岸好太郎美術館蔵

MUSEUM CALENDAR

2015.9~2016.3

美術館のおもな展覧会ご案内

 は特別展示室 は常設展示室

	9	10	11	12	1	2	3
近代美術館	9/1(火)~10/12(月・祝) 日韓近代美術家 のまなざし	10/17(土)~10/25(日) 10/31(土)~11/8(日) 11/14(土)~11/23(月・祝) 11/28(土)~12/6(日)	第30回記念北の日本画展 全道展70周年記念企画展 道展90周年記念企画展 新道展60周年記念会員展	12/19(土)~1/24(日) 冬のワンダー☆ ミュージアム2016		2/6(土)~3/21(月・祝) 平山郁夫 札幌展(仮称) 通くなるシルクロードと北海道	
	9/1(火)~12/6(日) 高橋三太郎展—放浪する木工家とそのカタチ ガラスのかたち—吹きガラスの魅力 岩田久利《花器・桜蘭》他 秋季名品選 ティファニー《ランプ・きばなふじ》他		12/19(土)~3/21(月・祝) 創刊90年『さとぼろ』とその時代 詩・版画・都市のモダニズム アートのことば ジェイ・マスラー《街景》他 冬季名品選 ライリー《アレストI》他		TEL 011-644-6883 近美札幌 検索		
美三岸好太郎館	9/5(土)~10/21(水) 特別展 ワンワンワンッダフル! —あの犬に会いたい	10/31(土)~1/20(水) 所蔵品展第3期 線は風のように 三岸好太郎の線描の魅力		1/30(土)~3/27(日) 所蔵品展第4期 好太郎ライジング 若き日の挑戦			
	TEL 011-644-8901 三岸美術館 検索						
旭川美術館	9/11(金)~11/8(日) 北海道の四季と風土	11/19(木)~1/24(日) 木と生きる アイヌのくらしと木の造形		2/11(木・祝)~2/21(日) 第70回記念 新ロマン派会員・会友展	2/28(日)~3/31(木) さわって みて 美術をまるごと楽しもう!		
	9/11(金)~11/8(日) バード&バードハウス 織田コレクションを中心に	11/19(木)~3/31(木) プリントアートの魅力		TEL 0166-25-2577 旭川美術館 検索			
函館美術館	9/12(土)~11/8(日) 勅使河原蒼風の眼と美の潮流 草月流秘蔵コレクション展	11/14(土)~1/24(日) 瀬戸英樹展		1/30(土)~4月上旬 ミュージアム・コレクション・スペシャル 文字と記号の織りなす世界			
	夏秋 ~11/8(日) 百花繚乱/筆勢の世界	秋冬 11/14(土)~1/24(日) 道南の風景/書にみる風景	TEL 0138-56-6311 函館美術館 検索				
帯広美術館	9/13(日)~11/23(月・祝) 招き猫亭コレクション 猫まみれ展 アートになった猫たち—浮世絵から現代美術まで	12/3(木)~3/16(水) 思考するアート コトバノカタチ		12/3(木)~3/16(水) 時間のかたち			
	9/13(日)~11/23(月・祝) 羊、羊、牛、牛	12/3(木)~3/16(水) 時間のかたち		TEL 0155-22-6963 帯広美術館 検索			
釧路芸術館	9/12(土)~11/11(水) 五味太郎作品展 [絵本の時間]	11/20(金)~1/27(水) 「私の1枚」日本写真史を飾る101人 フジフィルム・フォトコレクションによる		2/5(金)~3/21(月・祝) 幻想へのいざない あけてみよう、芸術館のふしぎの扉			
	10/20(火)~11/11(水) 「キリンがくる日」の できるまで	11/20(金)~12/9(水) 《我が町のお宝》展 白糠町から	TEL 0154-23-2381 釧路芸術館 検索				
美札幌芸術の館森	9/9(水)~11/8(日) スイステザイン展	11/14(土)~12/25(金) すごいぞ、これは!		1/17(日)~3/27(日) 札幌美術展 モーション/エモーション			
	~11/8(日) [中庭インスタレーション] 椎名澄子《風の子》	1/9(土)~2/28(日) [中庭インスタレーション] 奥山三彩		TEL 011-591-0090 芸術の森美術館 検索			
札幌彫刻美術館 新記念	~9/27(日) 谷口頭一郎展	10/3(土)~11/29(日) 田上義也と彫刻美術館		12/5(土)~4/10(日) ふれる彫刻(仮称)/In My Room			
	~10/18(日) 本郷新の描いた山々	10/20(火)~4/24(日) ちょうこく動物園		TEL 011-642-5709 本郷新彫刻美術館 検索			

○開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで) ※芸術の森9:45~17:00

○休館日 ●毎週月曜日(月曜日が祝日又は振り替え休日ときは開館、翌火曜日休館)

●年末年始(12/29~1/3) ●展示替え期間(展覧会と展覧会の間)

※施設により臨時休館、臨時開館の場合もありますので、各施設のホームページでご確認いただくか施設にご確認願います。

※会員登録の利用について 貸館の観覧は会員登録が利用できない場合がありますので、ご了承ください。

近代美術館

高橋三太郎展

—放浪する木匠とそのカタチ—
9月1日(火)～12月6日(日)

高橋三太郎は、札幌を拠点に目覚ましい活動を展開してきた木工家です。

1949年、名古屋に生まれ、北海道大で建築を学ぶために来札。1971年、学業の途中で3年を超える世界放浪の旅へ出ました。帰国後、ほぼ独学で木工の道へ進み、手作りの家具から始めて、公共建築の椅子デザインへと仕事の幅を広げていきます。なかでも札幌コンサートホールKitaraの椅子は、多くの方が座り心地を楽しんだ経験をもちでしよう。

彼が目指すことのひそひそは、「DECENT(慎ましやかな、上品な)WEALTHY(ゆたか)な暮らし」です。この考えの原点は、放浪を始めた頃に、ノルウェーの小村で質素ながらも心ゆたかに暮らす人々と出会い、深く共感した体験にあります。直線的なフォルムから始まり、曲線・曲面を加えて展開してきた高橋三太郎の椅子は、シンプルながらもゆたかなライフスタイルというメッセージが込められたものと言えるでしょう。

本展では、代表的なチェアやベンチ等約40点により、高橋三太郎の柔軟で力強い思考と創造の軌跡を一堂にご紹介します。



高橋三太郎とその椅子。札幌市小別沢の工房にて。

三岸好太郎美術館

線は風のまにまに

—三岸好太郎の線描の魅力—
10月31日(土)～平成28年1月20日(水)

三岸好太郎の線描表現は、彼の芸術の魅力物語る要素の一つといえましよう。三岸はわずか10年余りの短い画業の中で、作風の変化とともに多彩な線描を造形に取り込みました。油彩・素描いづれにおいても、作品において様々な画材に応じて自在に線を駆使した表現が生み出され、奔放、大胆、軽妙、繊細…実に多種多様な線描を作品の数々に見ることが出来ます。

本展では、初期の作品から、前衛表現

に目覚めた時期の「花」に見られる引つ掻き技法の作品や、同時期の代表作「オーケストラ」にみられる巧みな線描表現とそこにたどり着くまでの習作としての素描の数々を通じて、三岸の線描の魅力に注目しながら彼の生涯と画業をたどりまします。



三岸好太郎《オーケストラ》1933(昭和8)年 北海道立三岸好太郎美術館蔵

旭川美術館

木と生きる

—アイヌのくらしと木の造形—
11月19日(木)～平成28年1月24日(日)

木もまたカムイ(神)とするアイヌの人たち。祭壇や生活用具、衣装など古くからのくらしの中で、木を使う技と自然観を受け継いできました。本展では、技と心の伝承に焦点をあて、数々のアイヌの木の造形を紹介いたします。圧巻なのは、190点が一堂に展覧されるイクパスイ。

神や先祖にお神酒を捧げるときに用いられる儀礼具で、アイヌ(人間)の祈り言葉は、イクパスイによつてカムイに伝えられる

るといい、棒状のイクパスイの先を酒杯につけ、神や祖先の祭壇に向けて酒を垂らすのに使います。その中心部には多彩な彫刻が施され、アイヌの人々のゆたかな造形力がうかがえます。そのほか、アットウンやイタなど、道内はもとより、国立民族学博物館など全国から集めた優れたアイヌの木の造形およそ490点を紹介します。



イクパスイ(部分) 市立函館博物館蔵

函館美術館

瀬戸英樹展

11月14日(土)～平成28年1月24日(日)

瀬戸英樹は(1940/昭和15生)満州に生まれました。後に函館に移り、岩船修三に師事し、本格的に油彩画を学びます。1967年に全道美術協会(全道展)、

新制作展に初出品、初入選を果たし、以後両会を中心に発表するほか、安井賞展やシエル美術展など多くの展覧会に出品を重ねます。1974年から76年、1984年に渡独、そこで触れた風土は作風に大きな影響を与えました。現在はすべての所属を離れ、個展を通じて作品を発表、道南地方の農村や漁村、廃屋の情景などを題材に、極めて細密に描写した、独特な叙情を持つ作品世界を生み出しています。

本展では、現在取り組んでいる、住吉漁港から恵山にかけての海岸線を描いた、20mを超える連作をはじめ、幅10mにおよぶ大作《たば風が吹く浜》、《バンドラの箱(マイ・コレクション)》など、意欲的な制作に取り組み画家の1990年代以降の近作を中心に、初期からの重要作も交えて紹介します。



瀬戸英樹《海のオブジェ—北洋》2010年 北海道立函館美術館蔵

帯広美術館

招き猫亭コレクション 猫まみれ展

9月13日(日)～11月23日(月・祝)

9月6日まで釧路芸術館で人気を博した「猫たちが、今度は帯広へやってくる！」

9500年ほど前のはるか昔から、人とともに暮らしたとされる猫。いまはペットとしてのみならずキャラクターやトレードマーク、また「猫の手も借りたい」、「猫可愛がり」などの言い回しにもなるように、「猫可愛がり」などの言い回しかけがえのない存在となっています。

小説や舞台、映画、音楽そして美術にも、猫が重要な役どころとして登場します。古今東西の芸術家をもとりにし、数々の猫作品が生み出

されてきたのです。

本展では、猫と猫作品を愛してやまない収集家・招き猫亭のコレクションより、絵画や版画彫刻など魅力あふれる猫の作品280点余りを紹介します。閉幕前夜の11月22日には「能の手法で語る『吾輩は猫である』」を行うなど、イベントも盛り沢山！

猫になら、まみれてみたい！
そう思わせること請けあいの展覧会。ぜひ、愛くるしい猫たちに会いにいってくださいます。



高橋弘明《ジャパニーズ・ポプテイル》1924年

釧路芸術館

「私の1枚」

11月20日(金)～平成28年1月27日(水)

日本に写真術が伝えられたのは江戸末期のことです。1857(安政4)年、薩摩藩において初めて写真撮影に成功、5年後には長崎と横浜に写真館が開かれました。明治期には主に記録としての実用面が評価されて発展しますが、大正期になるとアマチュア写真家を中心に芸術性が志向され、絵画のような写真が生み出されます。昭和に入ると写真ならではの自立した表現も追求されるようになります。

戦前から戦後にかけては報道写真の分野

が急速に拡大、写真の持つ社会的な役割がクローズアップされます。高度成長期以降、広告やファッション写真が隆盛する一方で、私的な視点で日常的な光景をとらえた写真も注目されるようになりました。

デジタルカメラの普及によって、写真をめぐる状況が大きな転換期を迎えようとしている現在、101人の写真家の代表作によって日本写真史を望む本展は、写真とは何かを問い直す絶好の機会になることのできるでしょう。



内田九一《隅田川の舟遊び》1872年頃

札幌芸術の森美術館

「すいぞ、これは！」

11月14日(土)～12月25日(金)

全国の美術館学芸員や美術の専門家から推薦される12名の障がいをもつ作家たちによる展覧会「すいぞ、これは！」。

近年、障がいをもつ作家が制作した美術作品が日本でのみならず、世界でも大きな注目を集めています。ハンディキャップをもち、また専門的な美術教育を受けていないにも関わらず「創りたいものを創りたいように作る」作家たちから、何ものにも代えがたい魅力を放つ作品が現在進行形でどんどん生まれてきています。それらの作品は、思いもよらない視点のとりかたや素材の選択、線

り返し描かれるモチーフへの強いこだわり、奔放な想像力で見ると人を驚かせます。こうして生みだされた作品のなかでも特に優れているものは、プロのアーティストや美術館学芸員をはじめあらゆる分野の専門家を魅了し、新しいアートの分野として、さらに広く一般の美術愛好家にも認められはじめられています。当館では初の試みとなる本分野の展覧会。創作意欲溢れる作家たちの作品を是非ご覧くださいます。



伊藤輝政《三番星・桶川玉三郎丸》

本郷新記念札幌彫刻美術館

ふれる彫刻展(仮)

12月5日(土)～平成28年4月10日(日)

手でしかふれ、凹凸や質感を味わうことを通じて彫刻芸術に親しんでもらう展覧会です。当館所蔵の本郷新作品のなかから、親しみやすいモチーフのブロンズ彫刻を中心に展示するほか、札幌在住の作家に依頼し、手でふれて遊ぶことができる作品をあわせて出品します。

小さなお子さんがいてこれまでなかなか美術館を訪れられなかったお父さんお母さん、「彫刻」にどこか近寄りたさを感じている皆様は、ぜひご来場いただきたい展覧会

また、視覚に障がいのある方にも美術鑑賞の楽しみを味わっていただけるよう、点字キャプションや学芸員による解説サービスなどを実施します。

手の感覚を研ぎ澄ませて、彫刻芸術の豊かな魅力を感じてみてください。



岸本幸雄《月のかけら》2013年

A·RE·KO·RE information

【三岸好太郎美術館】

- オリジナルスイーツデー

10月3日(土)

2月6日(土)

- たんけん美術館

12月20日(日)

~1月20日(水)

- 三岸寄席

(若手落語家を予定)

1月中旬

- とっておきワークショップ

1月8日(金)~9日(土)



6月のオリジナルスイーツ「クッキー」

アートクラブ 2015

ボランティアによる恒例のワークショップ『かんたんデコパージュ&おりがみ写真たて』が6月13日(土)近美2階ロビーと造形室、2ヶ所に分かれて開催されました。当日は170名もの参加があり、ロビーではおりがみの写真たてを、造形室ではデコパージュの製作を実施。参加者は両方の会場をめぐり、作品づくりを体験していました。

- 次回の予定

11月未定(土) 10:00~
(小学生募集制)

2月未定(土) 10:00~
(随時参加)



ぐるっと3館鑑賞ツアー

6月10~12日



近美・北岡文雄
「風土連作6点」の前で



三岸好太郎美術館
cafe「きねずみ」でティータイム

- 次回の予定

9月16日(水)

~18日(金)

近美ミュージアム・ショップ

道内で活動されている作家とアトリエの商品をご紹介します。

*小樽ガラス工芸「サンフレスコ」



ペンダントトップ
2,700円・1,620円



*四季の硝子「瑠璃夢館」



ペンダント
3,700円



ブレスレット
5,400円

*彫金と七宝焼「ルートスリー」



ペンダント
25,920円

*陶芸家 西村和作



一輪挿し
5,400円



一輪挿し
3,024円

平成27年度移動美術館のご案内

— 道立美術館コレクション —

道内各地を巡回する移動美術館が、今年度は剣淵町と登別市で開催されます。
近代美術館・旭川美術館・三岸好太郎美術館のコレクションが公開されます。

- 10月 9日(金)~10月13日(火) 剣淵町絵本の館 TEL 0165-34-2624
- 10月16日(金)~10月20日(火) 登別市民会館 TEL 0143-88-1139

入場
無料

アルテピア・サロン

絵を描く

安部静恵



40年余り美術に関わってきました。今はおもに鉛筆デッサンか水彩で描いています。いつの日かゆつくり描ける時が来たら大作を描こうと思いつき、月日が流れてその時がやって来ました。

しかし制作意欲も湧かず焦る日々でした。きっかけを求めて社会人大学や美術館の美術講座を受けたり、作品展を見に行ったり、異文化の美を求めて旅行にも行きました。現実には描きたいけれども描けないのくり返しです。そんなに気張ることは無いのですが、私の中では芸術とは絵を描くこと、新しいものを創作する活動という定義があり、それに縛られていたのです。

作品制作の思いばかりが先行していましたが、最近には心にゆとりができてきました。芸術は固苦しいものではないかもしれません。身近に描く題材は沢山あります。自分らしさを忘れずポチポチ楽しむことにしました。

ご入会ありがとうございます 新会員紹介 2015年3月～7月・敬称略

3月	札幌市 片岡 郁子	札幌市	中深出	田林村	幹絃美	雄三華	札幌市	依江平	田本元	英三規	子代道	札幌市	真鷹新	鍋田岡	寿香正	子更弘
4月	札幌市 宮内 和夫 " 宇野 幸枝 " 澤田 和久 " 鈴木 雅子 " 山ノ内 孝之 " 小川 知之 " 間 むつみ " 島田 千津子 " 松井 峰子 " 高安 美絵 " 妹部 静恵 " 河本 薫 " 矢野 直美 " 有澤 けいこ " 深林 輝子	札幌市	北高風	上下無	は佳峰	つ子希	札幌市	橋佐平	藤山道	恭良淳	子也子	北広島市	横黒	岡田	由	佳菜
5月	札幌市 川端 可知子 " 橋田 拓子	北広島市 白老町	関池田	田本井	俊美 洋	雪泉水	札幌市 小樽市 岩見沢市 東京都	中戸廣	井田竹	正梅美	孝子 喜子	札幌市	鏡松 逸白	谷井 見山	葉勝 美津	子江 子
6月	札幌市 安房 恭子 " 真鍋 護		浅安彩	藤下原	陽雅 國	子夫繁枝	江別市 小樽市 岩見沢市 東京都	小石北宮	川本本	ゆかり 博太郎	晋	札幌市	小篠 奥	原村 藤	明幸 真	子理 智
		岩見沢市 北広島市 寿都町										札幌市	模杉 佐	谷本 藤	幸 真	理 智

法人会員、特別協賛会員 紹介

— ご協力誠にありがとうございます —

*法人会員

サッポロビール(株)北海道本社 北海道銀行 ホテル・ライフオート札幌 中西印刷(株) (公社)北海道私立幼稚園協会 (株)南香園 北洋ビル管理(株) (公財)北海道埋蔵文化財センター 北海道文化放送(株) トップツアー(株)札幌支店 オンワード樺山福祉共済センター ノースパシフィック(株) 北洋システム開発(株) 交洋不動産(株) (株)札幌北洋カード (株)北海道新聞社 (株)道新文化センター (株)HBA (株)どうしん厚別販売センター (公財)札幌市芸術文化財団 三菱電機(株)北海道支社 (公財)岡田茂吉美術文化財団 (株)三好商会 北洋ビジネスサービス(株) 大丸藤井(株) 日本通運(株)札幌西支店 北栄保険サービス(株) JR北海道 (株)近畿日本ツーリスト北海道札幌法人旅行支店 岩橋印刷(株) (株)アミノアップ化学 (医法)元氣会札幌整形外科 都市総合開発(株) (社医法)康和会札幌しらかば台病院 (株)ニトリホールディングス 戸田建設(株)札幌支店 (一財)北海道書道協会 (株)宮川建設 小林豊子きもの学院北海道(株) (株)NTTデータ北海道 (社医法)三草会 (医法)深仁会 北海道交通(株) (医法)札幌ハートセンター (株)日本旅行北海道札幌支店 (株)すし善 (株)星和サービス (株)北星コーポレーション 札幌パブリック警備保障(株) 学校法人北海道浅井学園 北海道ドレスメーカー学院

*特別協賛会員

(株)アミノアップ化学 (株)北洋銀行

(2015年7月末日現在・敬称略・順不同)

事務局だより

平成27年度 定時総会の報告

去る5月28日、近代美術館講堂において定時総会が開催され、会長の挨拶に続き議案の審議が行われました。定時総会終了後は、会場を1階ロビーに移して、恒例の「つどい2015」が行われました。

吉野会長 挨拶概要

会員の皆様には、当協力会の活動にご理解を頂き感謝申し上げます。

平成26年度の当会の活動面においては、ボランティアの方々のご努力、会員の皆様のご協力によりまして、予定どおりの活動ができました。

当会の最大の課題であります財政面については、単年度赤字の決算を基金の取り崩しで補っていることに大変申し訳なく思っております。平成27年度は赤字を縮小させるため、引き続き取り組みを強化し単年度黒字決算になるよう全力で取り組んでいく所存です。

今年度の課題は、①会員の拡大、②売店の売上増、③経費の節減を考えておりますが、なんといっても会員の拡大が最も大きな課題です。今後とも会員の皆様の一層のご支援とご協力をお願い致します。

議案審議等の概要

議案第1号 平成26年度事業報告、収支決算報告について

原案どおり承認可決されました。

事業実施状況については、ほぼ当初の計画通りに進めることができました。(収支決算については表1の通り)

議案第2号 平成27年度事業計画、収支予算案について

原案どおり承認可決されました。

事業計画については、基本的に従来から実施している事業がベースになっております。(収支予算については表2の通り)

会員証利用についてのお願い

○会員証ご利用の際は、会員証裏面の「使用上のご注意」にご留意願います。

65歳以上の会員の方は、常設展(近代美術館の「近美コレクション」など)観覧料が無料もしくは割引となりますので、会員証提示の際、「65歳以上」である旨をお申し出願います。

なお会員証利用による観覧料は、当協力会が主催者に支払いをしております。

一般社団法人北海道美術館協力会役員名簿

会 長	吉野 次郎	理 事	石黒 勇治	管 伸之	名畑 節子	監 事	木村 俊昭
副 会 長	鎌田 昌市		加藤 康夫	杉本 互	藤井 正治		納谷 信二
	小林 敬明		金井 英明	谷 紘子	堀 利幸		
	和田 壬三		腰塚 清一	戸井 敏夫			
専務理事	藤井 勇吉		小砂 憲一	長峯 慰子			

(表1) 平成26年度収支決算総括表(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

(単位:円)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	合 計	一般会計	売店会計	科 目	合 計	一般会計	売店会計
基本財産運用収入	1,196	1,196	0	事業費支出	23,767,730	6,814,831	16,952,899
特別収入	349	349	0	管理費支出	7,132,304	7,132,304	0
会費収入	9,643,000	9,643,000	0	特定資産取得支出	349	349	0
事業収入	18,993,646	1,438,000	17,555,646	他会計への繰入支出	600,000	0	600,000
寄付金収入	0	0	0				
特定資産取崩収入	2,300,000	2,300,000	0				
他会計からの繰入収入	600,000	600,000	0				
雑収入	20,469	20,191	278	当期支出合計	31,500,383	13,947,484	17,552,899
当期収入合計	31,558,660	14,002,736	17,555,924	当期収支差額	58,277	55,252	3,025
前期繰越収支差額	188,890	41,961	146,929	次期繰越収支差額	247,167	97,213	149,954
収入合計(B)	31,747,550	14,044,697	17,702,853	支出合計(B)	31,747,550	14,044,697	17,702,853
予算額(A)	40,049,890	14,901,961	25,147,929	予算額(A)	40,049,890	14,901,961	25,147,929
差異(A-B)	8,302,340	857,264	7,445,076	差異(A-B)	8,302,340	857,264	7,445,076

(表2) 平成27年度収支予算総括表(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

(単位:円)

区 分	収 入 の 部				支 出 の 部					
	科 目	予算額	前年度決算額	差 異	備 考	科 目	予算額	前年度決算額	差 異	備 考
一 般 会 計	基本財産運用収入	2,000	1,196	804	定期預金利息	事業費支出	6,826,800	6,814,831	11,969	
	特別収入	1,000	349	651	美術振興基金利息	美術活動協力事業費	6,033,800	6,195,351	- 161,551	V活動経費、会報・部内報印刷費、 会員観覧料等経費
	会費収入	10,839,000	9,643,000	1,196,000	法人、個人会員等年会費	美術講座等開催事業費	728,000	557,852	170,148	美術講座資料作成等経費・ つどい経費等
	事業収入	2,300,000	1,438,000	862,000	美術講座受講料・名刺広告・ つどい会費	美術優秀作品展覧事業	10,000	6,660	3,340	美術研修視察事前研修経費
	寄付金収入	0	0	0		美術優秀作品展覧事業	55,000	54,968	32	協力会賞の贈呈経費
	雑収入	21,000	20,191	809	普通預金利息	管理費支出	7,043,100	7,132,304	- 89,204	運営管理費
	他会計からの繰入収入	700,000	600,000	100,000		特定資産取得支出	1,000	349	651	
	特定資産取崩収入	0	2,300,000	- 2,300,000		当期支出合計	13,870,900	13,947,484	- 76,584	
	当期収入合計	13,863,000	14,002,736	- 139,736		当期収支差額	- 7,900	55,252	- 63,152	
	前期繰越収支差額	97,213	41,961	55,252		次期繰越収支差額	89,313	97,213	- 7,900	
収入合計	13,960,213	14,044,697	- 84,484		支出合計	13,960,213	14,044,697	- 84,484		
売 店 会 計	事業収入	21,000,000	17,555,646	3,444,354	商品売上収入	事業費支出	20,331,500	16,952,899	3,378,601	仕入、賃金、施設賃借料等
	雑収入	1,000	278	722	普通預金利息	他会計への繰入支出	700,000	600,000	100,000	
	当期収入合計	21,001,000	17,555,924	3,445,076		当期支出合計	21,031,500	17,552,899	3,478,601	
	前期繰越収支差額	149,954	146,929	3,025		当期収支差額	- 30,500	3,025	- 33,525	
	収入合計	21,150,954	17,702,853	3,448,101		次期繰越収支差額	119,454	149,954	-30,500	
総 計	35,111,167	31,747,550	3,363,617		総 計	35,111,167	31,747,550	3,363,617		

つどい 2015 5月28日

協力会会員の親睦を深めるための催し「つどい」が、今年度も総会に引きつづき美術館1階ホールにて開催されました。

今回のテーマは「フルート四重奏で巡る絵画の旅」。華やかな女性奏者4名による軽やかなフルート演奏を聞きながらの軽食と談笑の夕べです。



徐々に顔をあわせる会員やボランティアの方たちも軽快なモーツァルトの「トルコ行進曲」やチャイコフスキーの「くるみ割り人形」など馴染みの楽曲に耳をかたむけていました。遠く印象派絵画に思いを馳せながら心地よいひとときを過ごしました。

第32回 国内研修旅行 5月30日～6月3日



水木しげる記念館

島根・鳥取 美術館めぐり5日間



砂の美術館

アルテピア会員の拡大を目指して! 入会のお誘い

6月30日と7月2日～5日の5日間、夢見るフランス絵画展で賑わう近美の正面入り口付近で、吉野次郎会長をはじめ当会の役員一同が交代で、アルテピア会員募集のチラシを来館者に配り入会を働きかけました。

会員が年々減っています。会員の皆さま、お知り合いの方々へ入会のお誘いをお願い致します。



アルテピア ニュース

ミュージアム・スクール 「ミニ・アトリエ」 7月25日～8月16日

毎年開催されるミュージアム・スクール。

体験コーナーのミニ・アトリエでは日本画用の絵具を使って「暑中お見舞いはがきを作ろう」にたくさんの方がチャレンジしました。初日から中学生グループの参加で大賑い、親子で参加された方も絵を描きながら会話が弾み楽しい時を過ごしていました。

あらためてアートの実感!



編集だより

- 「夢見るフランス絵画」展ご覧になりましたか。盛夏を彩る珠玉の名品、ちょっと洒落た気分の夏を味わいました。
- 前号よりミュージアムショップコーナーを紙面に設けました。鑑賞後にはぜひショップにもお立ち寄りください。選りすぐられた逸品の数々がお待ちしております。
- 長らく編集にたずさわって下さった事務局 K 氏、7月末にてご勇退。お疲れさまでした。(M)

Installation (インスタレーション)

ひとくち
メモ

木立ちを背にした展示空間に足を踏み入れた時のこと。ある仕掛けによって、湧き出た霧が足元に迫り、たちまち視界を遮られ、まるで朝まだき深い森に分け入ったような錯覚に陥ったことがあります。

この手法が「インスタレーション」と呼ばれ、1970年ころから試みられるようになった絵画、彫刻、映画、写真などと並ぶ現代美術の表現手法のひとつです。

本来は「設置」・「取付け」という意味ですが、美術用語としては、ある特定の室内や屋外などにオブジェや装置を置いて空間を構成し変化させ、全体を作品として呈示すること又はその空間をいいます。よってこの用語は作品名のことあれば、タイトルの横に添え書きされて作品の展示形態を示すこともあります。また空間自体が作品であるため、一点一点の作品の鑑賞というより、作品に全身を包まれて冒頭に述べたような意表を突く体験に心の高まりを感じるかも知れません。(A)